

「デザイン学の異分野との関係と連携の際に問題となる要素に関する調査」

ブレインストーミングによるつながりの解明【人間関係が重要】

デザイン学の異分野との関係に関する調査を行うにあたり注目したのは、既に存在するデザイン学分野に含まれる領域、例えば、プロダクト、グラフィック、インタフェース、などであり、これらのキーワードを中心に調査を行った。



レモン・マルイ(注1)は、「グラフィックデザイン」とは産業界を土壌にした芸術学(表現)の行為であると述べている。アンパンマン(注2)は、デザイン学分野と工学分野が融合し「プロダクトデザイン」が生まれたとしている。おなじくアンパンマン(注3)は、心身障害学分野と融合して「バリアフリーデザイン」が、誕生したとしている。これらの調査結果に基づき、デザイン学分野の領域を8つ挙げ、各々に関連する学問分野の抽出を行った。

異分野とつながるデザイン学

前述の調査から、図1のようなデザイン学の異分野との融合の構造を見出すにいたった。中心の柱がデザイン学分野であるが、含まれるデザイン領域をダルマ落とし上に重ねる表現としている。周辺に、関係すると考えられる異分野の柱を配置してあり、各学問分野との繋がりを、色の橋によって表現した。また、各学問分野の上にある赤い文字は、デザイン学分野と異分野との間で、共通言語的に扱われる代表的なキーワードである。

参考文献

- 注1.「爪楊枝からロケットまで」/レモン・マルイ(学習書院)
- 注2.「私のためのアート」/アンパンマン(新曜社)
- 注3.「モコモコデザイン」/アンパンマン(新曜社)

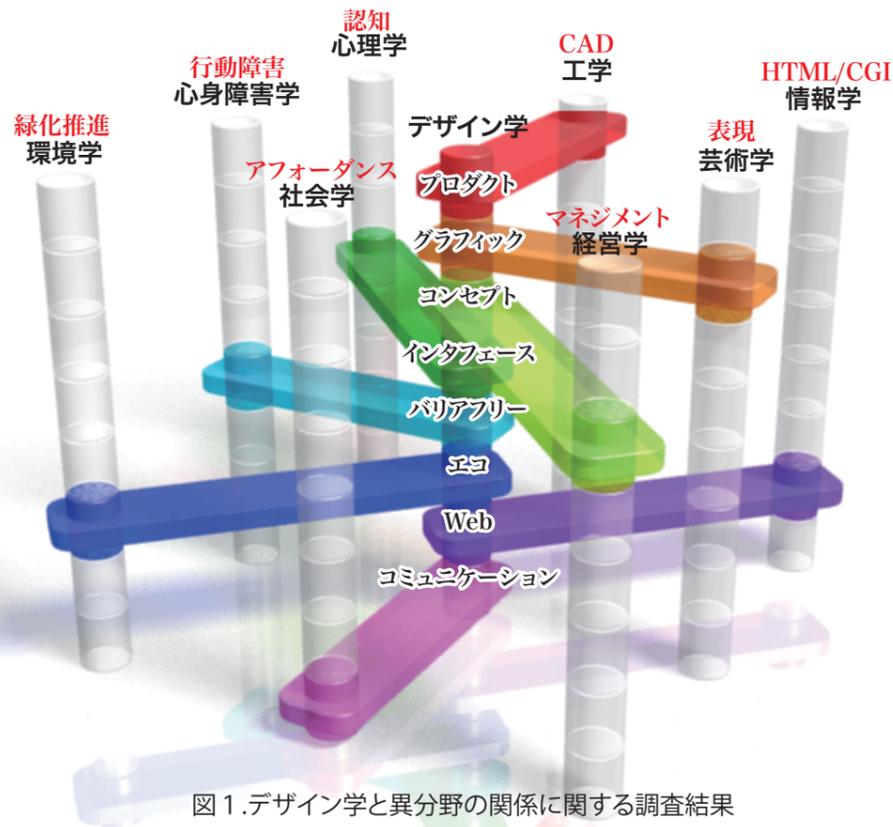


図1.デザイン学と異分野の関係に関する調査結果

男性に偏りがちな製品教員構成

コンピュータスキルとメディアの関係を調べるにあたり、札幌市立大学 デザイン学部 製品コースの教員に関する基礎調査を行った。(調査対象は、2008年4月時点での札幌市立大学WebSite(注4))

結果は表1にある通り、男性5名、女性1名と男性の比率が高い。今後は、女性教員の補充を行い、バランスをとるべきである。また、役職に関しては、おおよそバランスのとれた構成になっていると考えられる。

表1.札幌市立大学 デザイン学部 教員リスト

氏名	役職	専門
石崎 友紀	教授	道具学
酒井 正幸	教授	インタフェースデザイン
杉 哲夫	教授	デザインマネジメント
張 浦華	准教授	感性情報学
三谷 篤史	講師	メカトロニクス
柿山 浩一郎	講師	感性官能計測・評価

■ 男性 ■ 教授
■ 女性 ■ 准教授
■ 講師

参考文献・URL

- 注4.札幌市立大学WebSite (<http://www.scu.ac.jp/>)
- 注5.「爪楊枝からロケットまで」/レモン・マルイ(学習書院)
- 注6.「私のためのアート」/アンパンマン(新曜社)
- 注7.「モコモコデザイン」/アンパンマン(新曜社)

スキルとメディアの関係

注5、注6、注7の文献を情報源にし、図2を得た。(前述の表1の男女比率、役職のバランスに基づく)各スキルの利用割合を、表現メディア毎に●の強さ(色の濃度)でしめした。(色が濃いほど、高いレベルのスキルが求められる)

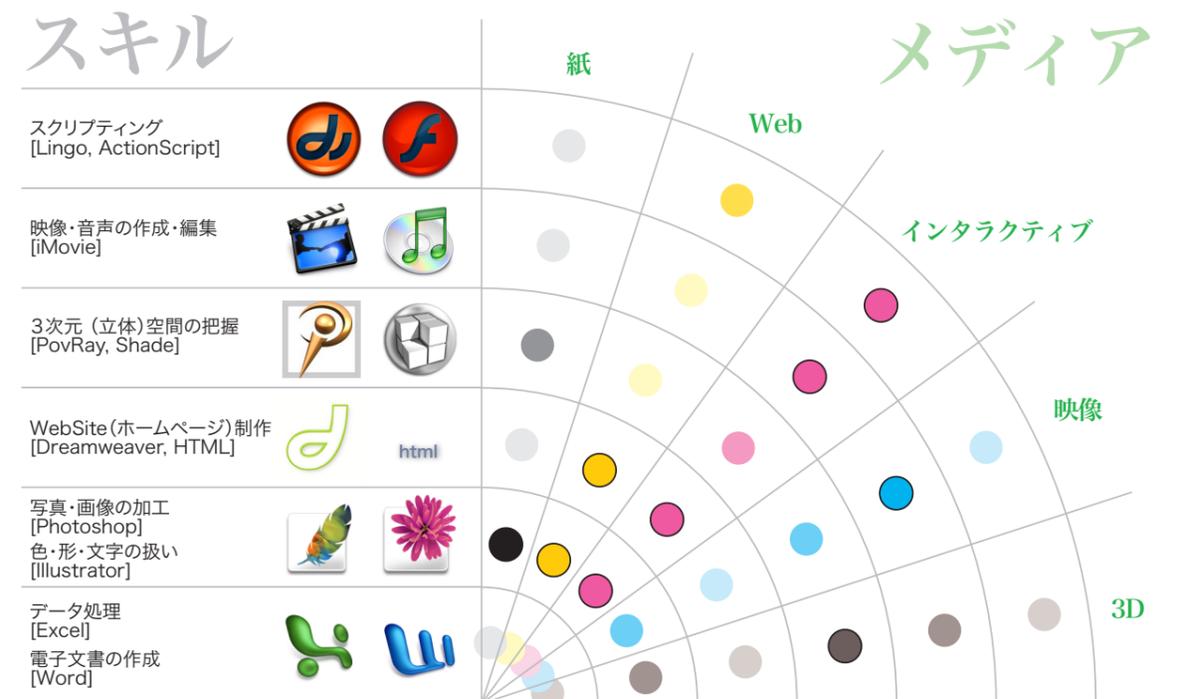


図2.コンピュータスキルとメディアの関係に関する調査結果